

Ⅲ. 「B 型事業所チャレンジ実習」の実施報告

1. 「チャレンジ実習」の内容	55
2. 「チャレンジ実習」の実施状況および参加者の概要	67
3. 「チャレンジ実習」の効果検証	68
3-1. チャレンジ実習に参加したことによる変化や感想	68
2-2. 本人が自覚する一般就労への「意欲」と「自信」	70
考察	72

1. 「チャレンジ実習」の内容

■ チャレンジ実習とは

B型事業所チャレンジ実習（以下、チャレンジ実習）は、いわゆる職場体験的な実習である。原則として3日間、1日あたりの体験時間は3時間程度に設定する。もともと想定では、見学・説明会の訪問先から実習を希望する者（以下、実習生）が実習先企業を選択し、企業に了解を得て決定することにしていたが、コロナ禍で実習を受け入れてもらえる企業が限られていたため、その企業への実習を希望する者を募るといふかたちで実施した。実習中の仕事内容は、現に障がいのある社員等が行っている業務を中心に、企業に選定してもらう。

チャレンジ実習の一番の目的は「働く」ことのイメージ形成であり、当該企業に就職することを前提としていない。したがって、現在の求人の有無、通勤手段の確保等は特に考慮しない。そのことについては、実習前に、実習生（事業所）、企業の双方に十分に説明し、了解を得た。

実習中はチャレンジ事業の調査員や事務局が帯同し、サポートすることとし、各事業所には実習先までの送迎を依頼した。

■ チャレンジ実習までの流れ

見学・説明会の終了時に参加者と事業所に、実習の希望を確認。希望する者については、実習先企業と実習期間を調整したうえで、以下の手続きを同時並行で実施した。調査員と事務局で、対象者への説明、事業所との打ち合わせ、企業担当者との打ち合わせを行った。

参加者への説明

- ・実習に必要な物、心がまえについて(資料1)
- ・情報提供書(資料2)の提出について同意
- ・実習時および実習後の調査内容(資料3、4)と同意
- ・実習日誌(資料5)の記入について

事業所との 打ち合わせ

- ・情報提供書の作成依頼
- ・実習中の送迎の依頼
- ・実習時および実習後の調査内容と協力依頼
- ・協定書の作成について

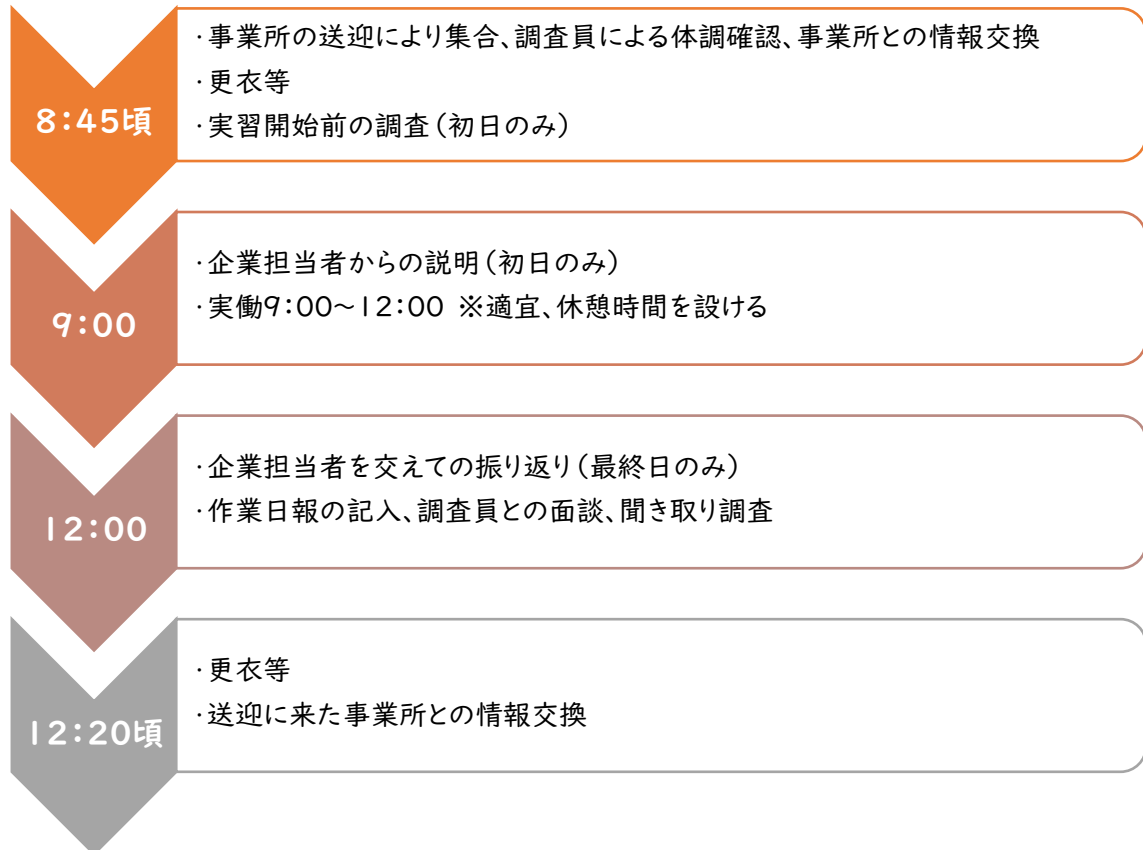
企業担当者 との打ち合わせ

- ・作業内容、集合時間、必要な物について
- ・情報提供書の提出について
- ・協定書の作成について
- ・実習日誌へのコメント記入について
- ・写真撮影の許可

■ チャレンジ実習の内容

チャレンジ実習の実働時間は概ね 9 時～12 時（1 企業のみ 13 時～16 時）。

集合場所までは各事業所に送迎を依頼。始業前に集合し、調査員による体温測定と体調確認を行ったうえで、出勤することとした。実習中は必ず 1 名以上の調査員もしくは事務局が同行し、必要時に支援を行える体制を整えた。業務終了後に、作業日報の記入と、聞き取り調査によって振り返りを行った。また協力が得られた企業については、最終日に担当者を交えた振り返りの場を設けた。



■ 調査員の役割

チャレンジ実習中は、1 名以上の調査員もしくは事務局が帯同し、実習生と企業担当者との仲介、支援を行った。主な役割は以下の通りである。

実習生に対して

- ・報告や相談の促しなどの助言
- ・体調確認
- ・作業日報の記入依頼
- ・面談・聞き取り調査（実習開始前、各日の終了時）
- ・振り返りシートの作成（資料6）

企業担当者に対して

- ・作業環境の調整、作業内容等の相談
- ・休憩のタイミング等の相談
- ・作業日報へのコメントの依頼

職場体験実習で気をつけること

【氏名】 ○○園 ○○ ○○ 様

【実習日】 令和3年○月○日 () ○:○○~○:○○

【企業名】 △△△△ (住所)

【準備するもの】 マスク、上履き、服装(ジャージ等) ※実習先に確認後に記入

【実習中に気をつけること】

1. 体調をととのえましょう。
 - 前日は夜更かしをしません。
 - 朝食は必ず食べます。
 - 普段どおり薬を飲みます (いつも薬を飲んでいる人)。
2. 持ち物を確認しましょう。
 - メモ帳・ペン
 - ティッシュ・ハンカチ
 - 飲み物
 - 普段飲んでいる薬
 - 不要なものは持って行きません。
3. 身だしなみをととのえましょう。
 - 事前に決めた服装にします。
 - 仕事にふさわしい髪型にととのえます。
 - 爪は切りそろえます。
 - ヒゲはそります (男性)。
 - 化粧は控えます (女性)。

【実習中に気をつけること】

- 自分からあいさつをします (あいさつ)。
- 問いかけには必ず返事をします (返事)。
- 指示は最後まで聞き、わからないことは質問します (質問)。
- 作業中にわからないこと、困ったことは相談します (相談)。
- 作業が終わったら報告します (報告)。



職場体験実習生情報提供書

資料 2

【取扱注意】

ふりがな		性別	
実習生氏名			
生年月日	平成 年 月 日 生 (歳)		
現住所			
連絡先			
障害名			
身体状況			
職歴			
性格・行動 長所 など			
働く場での 対人関係			
働く場での 行動・態度			
その他			
実習に際してのお願い (指導上の留意点等)			
【作成者】		【作成日】	

障害者一般就労チャレンジ事業
山口県社会就労事業振興センター

【本人用】

利用者氏名

Q：あなたは「一般就労」したいと思いますか？

「一般就労」 したい							
どちらとも いえない							
「一般就労」 したくない							
	見学会後 (/)	実習開始前 (/)	実習1日目 (/)	実習2日目 (/)	実習3日目 (/)	1週間後 (/)	1か月後 (/)

《記入方法について》

- ・面談時にご本人に聞き取りを行い、調査担当者が記入してください。
- ・「どちらとも言えない」を「0（基点）」として、プラス/マイナスに5段階を設定しています。ただし、数値にはこだわらず、ご本人の主観で構いません。
- ・必ず軸が交差する箇所に印をつけてください（軸と軸の間には付けしないでください）。
- ・目安としては「初めて話を聞いた時点と比べて…」 「前回の聞き取りと比べて…」と問いかけてください。
- ・調査の時点は以下のとおりです。（ ）内に日付をご記入ください。
見学会後：合同見学会に参加した日の終了後→事前に記入
実習開始前：チャレンジ実習前日もしくは初日の開始前
実習1日目：チャレンジ実習1日目終了時
実習2日目：チャレンジ実習2日目終了時
実習3日目：チャレンジ実習3日目終了時
1週間後：チャレンジ実習が終了してから1週間後（もしくはそれに最も近い利用日）

記入者氏名

《主な聞き取り内容》

前回と比較して上がった(もしくは下がった)理由は何ですか？

どんな条件があれば、「一般就労」してみたいという気持ちが、今より高くなりますか？

実習開始前	
実習1日目	
実習2日目	
実習3日目	
1週間後	
1か月後	

【本人用】

利用者氏名

Q : あなたは「一般就労」する自信がどのくらいあります

「一般就労」する
自信がある

どちらとも
いえない

「一般就労」する
自信がない

見学会後 (/)	実習開始前 (/)	実習1日目 (/)	実習2日目 (/)	実習3日目 (/)	1週間後 (/)	1か月後 (/)

《記入方法について》

- 面談時にご本人に聞き取りを行い、調査担当者が記入してください。
- 「どちらとも言えない」を「0（基点）」として、プラス/マイナスに5段階を設定しています。ただし、数値にはこだわらず、ご本人の主観で構いません。
- 必ず軸が交差する箇所に印をつけてください（軸と軸の間には付けないでください）。
- 目安としては「初めて話を聞いた時点と比べて…」 「前回の聞き取りと比べて…」と問いかけてください。
- 調査の時点は以下のとおりです。（ ）内に日付をご記入ください。
見学会後 : 合同見学会に参加した日の終了後→事前に記入
実習開始前: チャレンジ実習前日もしくは初日の開始前
実習1日目: チャレンジ実習1日目終了時
実習2日目: チャレンジ実習2日目終了時
実習3日目: チャレンジ実習3日目終了時
1週間後: チャレンジ実習が終了してから1週間後（もしくはそれに最も近い利用日）

記入者氏名

《主な聞き取り内容》

前回と比較して上がった(もしくは下がった)理由は何ですか？

どんな条件があれば、「一般就労」する自信が、今より高くなりますか？

実習開始前	
-------	--

実習1日目	
-------	--

実習2日目	
-------	--

実習3日目	
-------	--

1週間後	
------	--

1か月後	
------	--

障害者一般就労移行チャレンジ事業 チャレンジ実習《事後調査票》

ご本人の氏名	
記入者	本人・支援者（氏名）

1. ご本人の今の気持ちをお尋ねする設問です。ご本人と面接をし、聞き取りされた結果をご記入ください。

① チャレンジ実習に参加して、一般就労や企業へのイメージに変化がありましたか？

あなたの気持ちに一番近い項目に○をつけてください。

変化があった どちらかといえば、
変化があった どちらかといえば、
変化がなかった 変化がなかった



「変化があった」「どちらかといえば変化があった」と回答した人にお尋ねします。
どのような変化か、具体的にご記入ください。

② チャレンジ実習に参加して良かったですか？

あなたの気持ちに一番近い項目に○をつけてください。

良かった どちらかといえば、
良かった どちらかといえば、
良くなかった 良くなかった

「良かった」あるいは「良くなかった」の理由を、具体的にご記入ください。

2. 支援者から見た利用者の方の様子をお尋ねする設問です。
支援者の方のご判断でご記入ください。

① チャレンジ実習に参加されたことで、ご本人の発言や行動、意欲等に変化がありましたか？

変化があった どちらかといえば、
変化があった どちらかといえば、
変化がなかった 変化がなかった



「変化があった」「どちらかといえば変化があった」と回答した人にお尋ねします。
どのような変化か、具体的にご記入ください。

② チャレンジ実習の送迎時、もしくは実習後の面談等で、ご本人の感想や要望等がありましたら、ご記入ください。

3. 支援者の方のお考えをお尋ねする設問です。
今回のチャレンジ実習について（時期・実習先・支援体制等）、お気づきの点、今後のご要望等がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

職場体験実習日誌

企業名

日にち:

月

日

曜日

名前

体温	℃
----	---

体調	
----	--

出勤した時間	:
--------	---

退社した時間	:
--------	---

実習前	体調	◎	○	△	×
	持ち物	◎	○	△	×
	身だしなみ	◎	○	△	×

実習中	あいさつ	◎	○	△	×
	返事	◎	○	△	×
	質問	◎	○	△	×
	相談	◎	○	△	×
	報告	◎	○	△	×
	作業	◎	○	△	×

今日の作業内容	
---------	--

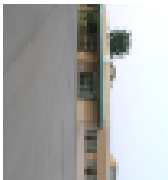
感想	
----	--

コメント	
	印

チャレンジ事業 体験実習

社会福祉法人アスワン山荘

〒759-0136 山口県宇野町二保須山 三原40-221



要介護3以上の方で、通院介護が必要とする方が生活する施設です。定期的に介護職員研修のために施設内を5つのゾーンに分け、入居者・職員が指定された生活領域をめぐり、それぞれの役割を体験を行っています。

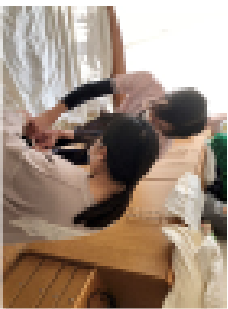
実習生：○○ ○○○
社会福祉法人 ○○○○
(○○○○○)

担当 者：アスワン山荘 ○○ ○○

実習期間：令和3年3月24日 (水)～26日 (金) 13:00～16:00

2/24(1日目) 曜 13:00～16:00

13:00～	ミーティング
13:45～	ベトナムイキング
15:45～	振り返り

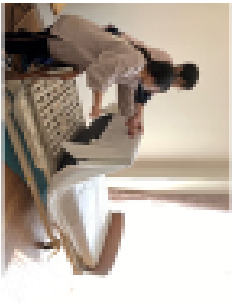


実習先担当コメント

施設は動画撮影日、お昼の静かした、初めての体験をたくさん観えることもあり、大変だったものと思います。楽しんで取り組んでいたのがいいかなと思います。お話を聞いておられるように行役がわかると思います。自分の役割をこなす増やすための取り組みもたくさんあるので明日も頑張ってください。

2/25(2日目) 曜 13:00～16:00

13:00～	ミーティング
13:30～	ベトナムイキング
15:45～	振り返り

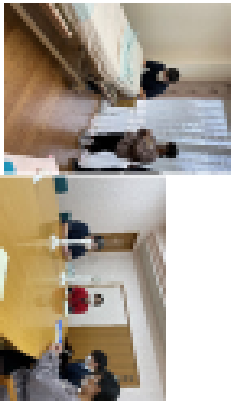


実習先担当コメント

2日目、大変お疲れ様でした。初日に比べると職員が1つでも多くできてより充実した一日になったように思います。住居の方にも通院が相違点ではない、戸建てでもしお風呂よりにはお洗濯をさせてほしいとの声も、言葉にのまなくても通院はなくても大丈夫なので、少しづつお風呂を任せられるとうれしく思います。作業が通ちのも大変な作業ですが、1つでも多くの言葉を聞いて頂くのはありがたいと思います。

2/26(3日目) 曜 13:00～16:00

13:00～	ミーティング
13:30～	ベトナムイキング
15:10～	振り返り



実習先担当コメント

3日間の実習、大変お世話になりました。お昼の静かした、初めてのことにばかりで戸惑い、たくさんお話を聞かされたと思います。3日目、お話を聞かせることもおもしろいとお話があり、山荘さんだけでなく皆さんの質問も聞いていた印象でした。楽しかったこと、大変だったこと、1つでも通院に悩んでいると5日間、大変な作業に悩まされたことと思います。これからお話しする通院でください。お世話になりました。

2. 「チャレンジ実習」の実施状況および参加者の概要

新型コロナウイルス感染症の影響で、チャレンジ実習は、見学・説明会を行った企業のうち、4圏域の5企業のみで行った。また、年度末等の企業側の事情で、1日あるいは2日のみ実施した企業もある。

7事業所からのべ10名が参加。このうち2名は2か所で実習を行ったため、参加者の実数は8名である。

実習企業	実習期間・実習時間	参加者	主な業務内容
社会福祉法人アスワン山荘	令和3年2月24日(水)～26日(金)	1名	シーツ交換作業
	13:00～16:00		
株式会社美萩工芸	令和3年2月24日(水)～26日(金)	2名	段ボール組立て等の軽作業 製品の検品チェック
	9:00～12:00		
山口県きらめきワークセンター	令和3年3月31日(月)～3日(水)	2名	遞送作業、シュレッダー 封入等の事務作業
	9:00～12:00		
株式会社カワトP.C.	令和3年3月2日(火) ※1日のみ	2名	製造過程の軽作業 梱包
	9:00～12:00		
山口市ワークステーション	令和3年3月8日(月)・9日(火)	3名	封入、パソコン入力等の事務作業 草刈り作業、清掃作業
	9:00～12:00		

参加者の年齢、性別、主な障害種別(保有する障害者手帳)は以下の通りである。事例8と11、事例9と12は2か所に実習に行った者であり、同一人物である。事例番号は、次頁以降の分析に対応している。なお、実習生個人や実習企業が断定されないよう、事例番号はランダムに振っている。

番号	年齢	性別	主な障害種別
事例1	50	男	知的障害
事例2	19	男	知的障害
事例3	45	男	精神障害
事例4	47	男	精神障害
事例5	20	男	知的障害
事例6	39	男	精神障害
事例7	44	男	(認定無し)
事例8・11	45	女	精神障害
事例9・12	20	男	知的障害
事例10	23	女	知的障害

3. 「チャレンジ実習」の効果検証

3-1. チャレンジ実習に参加したことによる変化や感想

チャレンジ実習終了後に、各事業所の支援者に、面談および聞き取り調査を依頼した。調査票をもとに、一般就労や企業へのイメージの変化、実習の感想について質問した。また、支援者から見た評価についても記入してもらった。実習生10人全員から回答を得ることができた。

なお、2回参加した者については、2回目の実習後の調査結果を集計に用いている。自由記述については、両方の調査結果を含めている。

① チャレンジ実習に参加したことへの本人の感想

まずは、チャレンジ実習に参加して、一般就労や企業へのイメージに変化があったかを、「変化があった」「どちらかといえば変化があった」「どちらかといえば変化がなかった」「変化がなかった」の4択で質問した。

結果、「変化があった」「どちらかといえば変化があった」と、「変化があった」「どちらかといえば変化がなかった」が半数ずつであった。どのような変化なのかについては、「仕事に対する気持ちが高くなった」「従業員が優しかった」といった肯定的な意見と、「事務系の仕事は難しいと思った」「覚えないうけないことがたくさんある」といった自身の課題の気づき書かれていた。

次に、チャレンジ実習に参加した感想について、「良かった」「どちらかといえば良かった」「どちらかといえば良くなかった」「良くなかった」の4択で質問した。

結果、全員が「良かった」もしくは「どちらかといえば良かった」と回答した。「良かった」理由としては、「経験が自信につながる」「自分にもできる作業があって良かった」「前向きな気持ちになった」等、仕事内容だけでなく、体験そのものを肯定的にとらえた意見が多かった。

問：チャレンジ実習に参加して、一般就労や企業へのイメージに変化がありましたか？

あなたの気持ちに一番近い項目に○をつけてください。

	変化があった	どちらかといえば変化があった	どちらかといえば変化がなかった	変化がなかった
人	3	2	4	1
%	30.0%	20.0%	40.0%	10.0%

問：見学会に参加して良かったですか？

あなたの気持ちに一番近い項目に○をつけてください。

	良かった	どちらかといえば良かった	どちらかといえば良くなかった	良くなかった
人	7	3	0	0
%	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%

② 支援者から見た実習生の変化

事業所の支援者から見た実習生の変化について、「変化があった」「どちらかといえば変化があった」「どちらかといえば変化がなかった」「変化がなかった」の4択で質問した。

その結果、10人中7人が「変化があった」もしくは「どちらかといえば変化があった」と回答した。変化の内容としては、就職に対して取り組みや発言が前向きになった、現時点での自分の課題に気づけたといった回答があった。なかには就労移行支援事業の利用や就きたい仕事について具体的に語るようになった実習生もいた。

問: チャレンジ実習に参加されたことで、ご本人の発言や行動、意欲等に変化がありましたか?

	変化があった	どちらかといえば 変化があった	どちらかといえば 変化がなかった	変化がなかった
人	6	1	3	0
%	60.0%	10.0%	30.0%	0.0%

2-2. 本人が自覚する一般就労への「意欲」と「自信」

効果検証の方法（考え方）

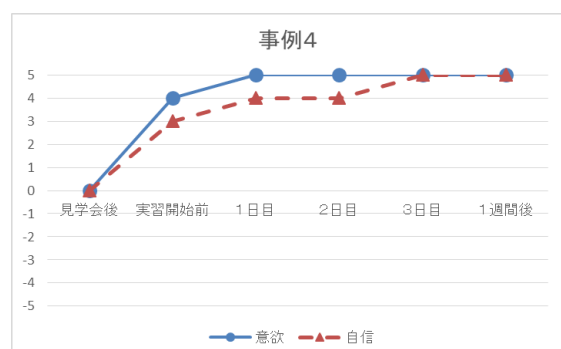
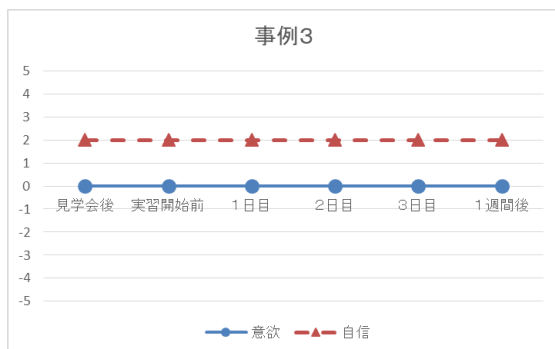
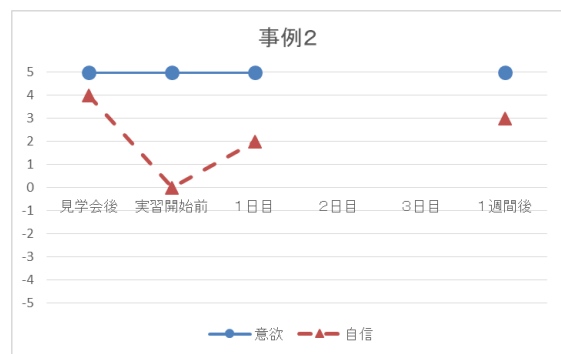
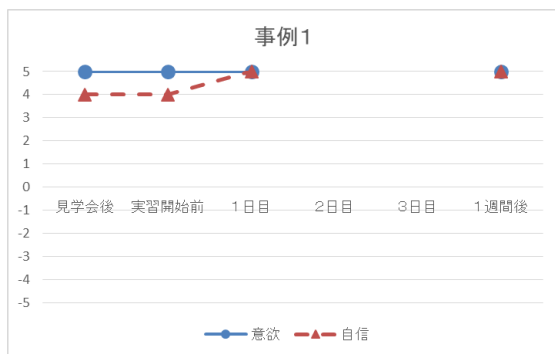
スケールの考え方は、見学・説明会と同様である。前回との相対化がより視覚的に理解しやすいように、折れ線グラフの形で記入していくこととした。

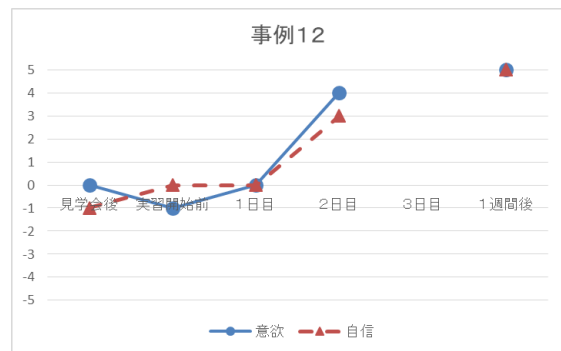
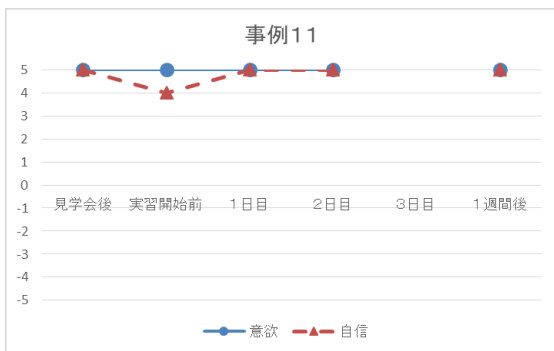
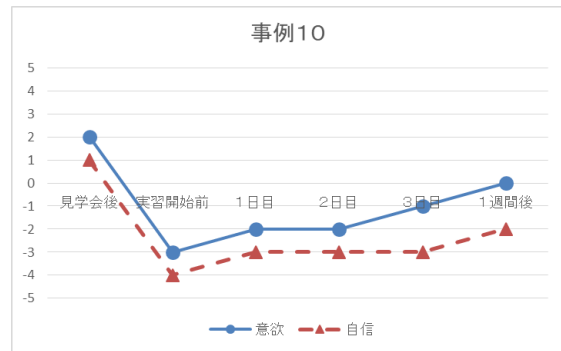
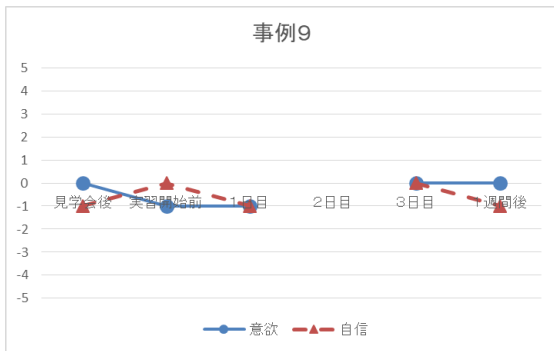
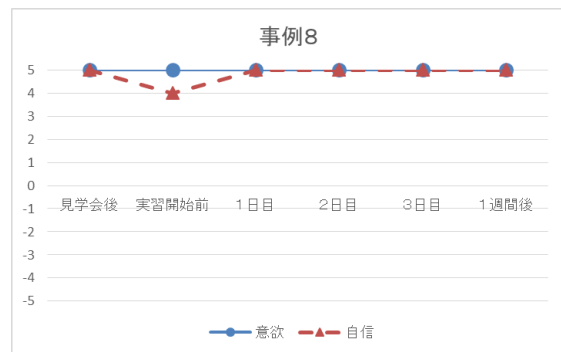
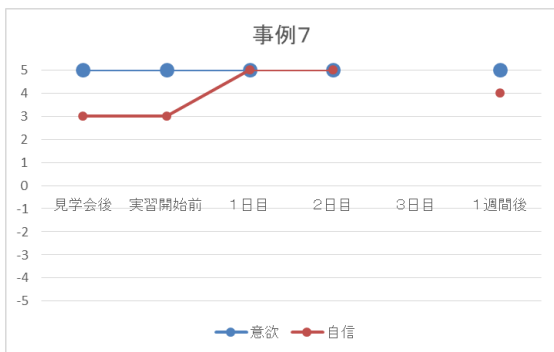
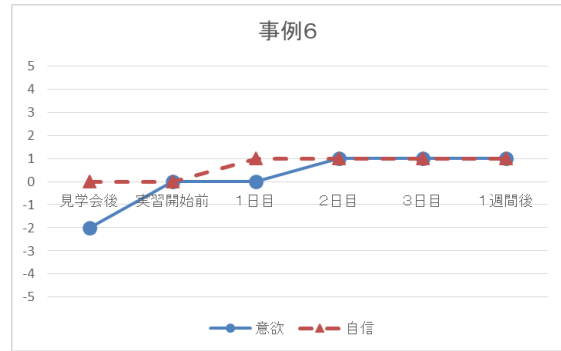
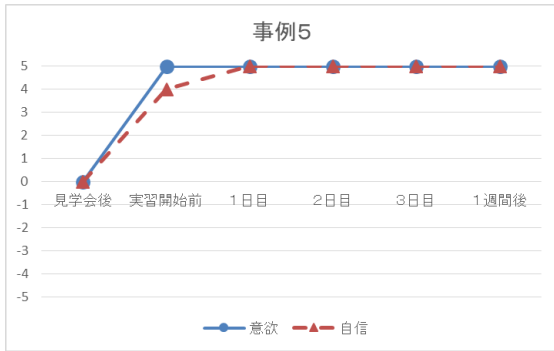
調査は、調査員がグラフを聞きながら聞き取り調査で行った。時点は、①見学・説明会終了後（事前に記載）、②実習開始の前日もしくは当日の開始前、③1日目終了時、④2日目終了時、⑤3日目終了時、⑥終了1週間後である。

見学・説明会への参加前、②見学・説明会終了後、③見学・説明会の1か月後の3時点で行った。

今回のチャレンジ実習は12事例（実人数は10名）で、実習期間も差があるため、全体としての分析は意味をなさないと判断し、個人の変化のみを分析した。

各事例のスコアの変化





考察

今回のチャレンジ実習は、(1) 事例数が少ないこと、(2) 実習期間が人によって異なること、(3) 実習回数が人によって異なること、といった理由により、全体として考察することは難しい。

各自の変化に着目すると、実習開始前と比較して、実習を通じてスコアが上昇していくパターンと、あまり変化がないパターンに分かれる。変化がないパターンにも2通りあり、その人なりの基準で微動もしくは一定のスコアの場合と、もともと「5」でそれ以上増えることがない場合である。後者の場合、「本当はもっと増えている。5以上!」といった発言も聞かれたことから、調査手法上の限界であると考えられる。いずれにしても、実習前と比較して大きく下がるパターンは1例もないことから、実習によって「意欲」や「自信」を高める効果は確実にとは言えないが、少なくともその2つを下げたという事は生じていないといえる。

スコアが上昇する場合とそうでない場合には、どのような条件が異なるのだろうか。事例数が少ないため、あくまで推論に過ぎないが、以下のようなことが考えられる。

まずは、実習期間との関係である。1日や2日間しか実習できていない人であっても、上昇している事例があることから、スコアだけ見ると、必ずしも3日間である必要はないようにも解釈できる。ただし、聞き取り調査の内容を見ると、「最初はうまくできなかったが、少しずつできるようになった」「3日目くらいから仕事ができたという実感がわいた」「3日間続けられたことで自信がついた」といった意見も多くみられ、一定期間経験を積むことで自信や達成感につながっていることがわかる。

次に、実習先との関係である。例えば、事例9と事例12は同一人物である。事例9では3日間実習しているにも関わらずスコアの上昇がみられないが、事例12では2日間の実習であったが、スコアは上昇している。このことから推察されるのは、その人の希望や適性に沿った実習先が確保できれば、日数が短くても、「やる気」や「自信」を伸ばすことはできるということである。聞き取り調査でも、「この作業が自分には向いていることを実感したし、これならできると感じた」といった意見も聞かれた。チャレンジ実習の効果を最大限に発揮させるためには、「行ってみたい」「やってみたい」企業や職種、作業内容の実習とのマッチングが大切であることが分かった。

3点目は、実習先の雰囲気や職員との関わりによって意欲や自信が高まるということである。聞き取り調査では、「職員に教えてもらってうまくできるようになった」「困ったことがあったらすぐに教えてもらったのでスムーズにできた」「途中で職員からできているという声掛けをもらいうれしい気持ちになった」といった、現場の職員や指導者からの声掛けについて語る意見が多かった。企業側の指導者からの日誌のコメントや反省会での評価も、意欲や自信を高めるものになっている。

一方で、相談や報告がうまくできなかったことで、自信が下がっている実習生もいた。ただし、これは実習に行くことで、自分の課題が見つかったという見方もできる。

自由記述一覧

《実習中及び実習後の聞き取り》

Q:「一般就労してみたい」という意欲が変化した理由は何ですか？

Q:どんな条件があれば「一般就労」したいという気持ちが今よりも高くなりますか？

- ・ B型事業所より就職した方がやりがいがある。
- ・ 作業は最初は苦勞したが、途中からうまくなり、やり方もわかってきた。
- ・ 一般企業でチャレンジしたいという気持ちは高いまま変わらない。
- ・ 作業していると楽しかった。皆さんが優しかったので良かった。
- ・ 話をするのが苦手であまり伝えられないので、どこか不安。紙に書いて気持ちを伝えられるようにメモ帳を準備した。
- ・ 新しい環境での作業なので緊張しているし、作業もできるか少し不安。
- ・ 3日間まじめに取り組むことが出来た。また機会があれば違う場所でもチャレンジしたい。
- ・ 一般就労して給料が欲しい。まずは体験してみて今後について考えたい。働いて、買いたいものがある。
- ・ 仕事を体験してみて、今すぐにも働きたいと思った。仕事内容は同じ現場にいる優しいスタッフに教えてもらいながらすることが出来た。やり方がわからない時や困ったことがあった時にはすぐに教えてもらうことが出来たので、仕事でもスムーズに行うことが出来た。
- ・ 仕事では、できたという実感がわいているし、いい緊張感をもってすることが出来た。
- ・ 1時間やって10分の休憩がちょうどよく感じた。
- ・ 体験は午前中だけだが、午後もしてみたいと思った。
- ・ 暗い職場より明るい職場がいいと思った。雰囲気の良い職場だと感じた。
- ・ 仕事も楽しかったし、9時から12時までの3時間だったが、充実した体験となった。1日の仕事はきついかなど思った。しかし、よりしたい気持ちが残った。
- ・ 体験を通してイメージを作っていきたい。働く経験を積み重ねていき、ゆくゆくは一般就労を目指していきたい。
- ・ どんな仕事をするか楽しみであるが、ドキドキもしている。
- ・ 最初はできないと思ったが、職員に教えてもらいながらうまくなる事が出来た。3時間という作業時間だったが、もう少しやりたいと思った。
- ・ したい気持ちは大きくなっている。実際に仕事ができているという気持ちになった。自分も働くことが出来るんだと実感している。
- ・ したい気持ちが強くなった。3日目くらいから仕事ができたと実感があった。
- ・ 自分から相談などが積極的にできたらもう少し良かったと思う。
- ・ 2日目とグラフの表記は変わらないが、少し気持ちが上がったような気がする。3日間休まずにできて達成感はある。
- ・ 鏡に向かって「やるぞ!」と言う。今日やったことを明日、さらに覚える。仕事が終わったらメモしたことを復習する。

- ・ 日誌のコメントで、ぜひここで仕事をしたいと思いました。反省会で高評価をいただけたので。
- ・ 周りの人と話すこと出来たらいい。
- ・ 自分に合った作業だったので、意欲が高まった。
- ・ パートで働くことが適当だと感じる一方で、収入面での不安もある。これからの働き方の方向性が定まったり、働ける自信や実感が持てたりしたら、就職に対する気持ちが今より高くなると思う。
- ・ 実際に作業してみたら不安が少し減りました。
- ・ 働いている人の話を聞いて良かった。
- ・ 仕事は覚えなれないといけなことがたくさんあることが実習でわかったけど、楽しかったので、上がりました。
- ・ 集中力は大切だけど、静かすぎる。和気あいあいできれば、もっと「やりたい」という気持ちが強くなる。
- ・ 周囲が集中していたので、自分も頑張ろうと思った。
- ・ 自分が出来そうな作業があった。丁寧、確実にミスなく作業ができたから、意欲が上がった。
- ・ やれる仕事があった！人との関係がうまくいった。

Q:一般就労する自信が変化した理由は何ですか？

Q:どんな条件があれば「一般就労」する自信が今より高くなりますか？

-
- ・ 条件次第であるが、自信は変わらない。
 - ・ 今までいろいろな仕事をしてきたが、すべて福祉的作業所だったので、一般企業で体験して力をつけたい。
 - ・ 作業途中から、うまくできるようになったのは、自信になった。
 - ・ 実習を経験して自信がついた。
 - ・ 就職面接で練習してきたことが出来ず、うまくいかなかったので、少し自信を失った。
 - ・ 体験で学べるのであれば、自信につなげたい。
 - ・ 返事ができたことが、上がった理由。作業もスムーズにできたので良かった。
 - ・ 会社での仕事を意識した訓練をし始めており、少しずつ自信につながっている。
 - ・ 自分からうまく話をする事が出来ないのが不安。質問することが出来ないのが、作業をきちんとできるかどうか不安。始めていく場所での仕事なので緊張もしている。
 - ・ 上手くてできるかどうかはやってみないとわからない。
 - ・ 最初の説明でやり方を理解し、最後までトラブルなくやることできた。同じことを繰り返す作業内容だったが、最後まで自分のペースですることが出来た。
 - ・ 職場の雰囲気にも慣れてきたが、作業中に不明なことがあったが、職員に聞くことが出来なかった。書いてでも伝えたほうが良かった。これができないと一般就労はできないと感じた。
 - ・ 同じ作業を3日間したが、飽きることなくやりきることが出来た。反復作業はどちらかというと得意である。

- ・ 仕事はできているけど、事業所とこれから体験する仕事場では方針が異なるので、不安に思っている。
- ・ 開始前に比べて、実際にやってみてできる自信はついた。これならできるんじゃないかと思った。ほかの職員と一緒に仕事ができて良かったと思う。
- ・ 実際にやったことがある作業だったのでスムーズに行うことが出来た。職員からの指導・指摘も理解し、その後はそれについて注意しながらすることが出来た。
- ・ 作業ができたので、自信はついてきている。
- ・ 検品という大切な作業をさせてもらってやりがいがあった。重要な作業を任せられるということで、良い緊張感をもって作業をすることが出来た。途中で職員からできているという声掛けをもらい、自分でもできているんだとうれしい気持ちになった。今日はもう少し長くしたいと思った。このようにがんばれば給料がもらえるんだと思った。3日間続けられて良かった。
- ・ 仕事には責任もあり、自分のやる気も必要。期待に応える必要があり、その期待に自分も応えていきたいと思っている。この3日間の経験により、自信がついた。
- ・ 職員からわかりやすく説明を受けて仕事をすることが出来たが、自分から相談することが難しかった。
- ・ 上手くできなかつたときに相談することが出来なかつたので、相談をすることが課題だと思う。
- ・ 3日間休まずに参加できて自信につながった。
- ・ 決められた時間、集中して作業をすることが出来た。朝遅刻せず、自分で仕事場に行けたことも自信につながった。
- ・ 作業は淡々と同じ内容をこなすものだったため、自分に向いていたと思うし、集中してすることが出来た。
- ・ 作業はできているが、ついついこれでいいのかな?とってしまった。
- ・ 自信は変わらないが、3日間やり終えて達成感は少しある。自分が作ったものが積み重なっていくのを見て「これだけでできたんだ」という感情になった。淡々と物を作る作業が自分には向いていることを実感したし、これならできると感じた。
- ・ 3日間、同じ仕事だったけど、楽しく笑顔で、テンションも上げずにできたこと。こう評価をもらえたこと。
- ・ 報告が出来なかつた。報告ができるようになりたいです。
- ・ 就職することを考えたとき、自分にとって難しい仕事でもチャレンジしないといけないと思うと不安になり、自信が持てなくなった。仕事ができると感じられると、就職に対する自信になると思う。
- ・ 挨拶や質問ができるといいなと思った。
- ・ 今までのインターンシップでは一人で困ることが多かつたけど、今回の実習では自分のことを理解してもらって、丁寧に指導をもらった。実習を終えて、安心して働ける実習になったので、少し自信がついた。
- ・ 人と会話が出来たらもっと上がる。人と仲良くできたら上がる。
- ・ 人とも仲良くできた。人の輪に入って逃げなかつた。

《事後調査票》本人への聞き取り

Q: チャレンジ実習に参加して、一般就労や企業へのイメージの変化とは？

- ・ 仕事は覚えなれないといけなことがたくさんあることが分かった。
- ・ 事務系の仕事は難しかったけど、体験はすごく楽しかった。
- ・ 事務系の就職は難しいかもしれないと思った。外作業ならできるかもしれないと感じた。
- ・ 非常にわかりやすかった。
- ・ 仕事に対する気持ちがより高くなった。収入のために頑張りたい。
- ・ 会社は厳しい所と聞いていたが、従業員に優しい面を感じました。
- ・ これが一般就労なんだという久しぶりの感覚を思い出せた。
- ・ 自分自身に自信がつくタイミングが難しい。

Q: チャレンジ実習に参加して、「良かった」と思った理由は？

- ・ これからの働き方を考えると悩みや不安があったが、働いている障がいのある方のお話を聞いて、自分と同じように悩みながら就職をされたことを知り、少し前向きな気持ちになることが出来ました。
- ・ 色々な体験をして、「もしかしたらできるかもしれない」という自信がついた。
- ・ 自分が知らない色々なことを勉強できた。色々な経験ができた。
- ・ 全て良かった。色々な体験ができた。
- ・ 全て良かった。とても楽しかった。
- ・ このご時世に見学させてもらえたこと。とても優しく丁寧に説明していただいたこと。
- ・ 一般就労を体験できて参考になった。今までも就職したい気持ちはあったが、より気持ちが強くなった。
- ・ 自分でもできる作業があって良かった。
- ・ 練習ではなく、実際に少しでも関わらせてもらえたこと。

《事後調査票》支援者の意見

Q: チャレンジ実習に参加したことでの、本人の発言や行動、意欲等の変化？

- ・ 今でも就職に対する不安や悩みのすべてが解消したわけではないと思うが、そういった気持ちを抱えながらも就職に対して取り組んでいこうという意思を、体験前よりも強く感じられるようになりました。
- ・ 就職をしたいという意思は強く持っているが、10段階表記の場合には10にしたいくないような感じでした。本人のなかで、10は完璧に仕事ができるというイメージのようです。
- ・ 本人の回答は控えめだが、就職したいという意思はあるようです。
- ・ 就職に対して、前向きになったと感じています。またほかの実習をやりたいと言ってきています。事務系の仕事がしたいと言っていましたが、現実的に私はあそこまでパソコンはできないという現実が分かったそうです。

- ・ 実習を体験して、就職が楽しいと思ってくれて安心しています。現時点での自分のできることや不得意な部分が見えてきたようです。
- ・ もともと一般就労の経験がある方なので、業務内容よりも精神的な部分での自信がついてきたと思う。
- ・ 就職に向けて気持ちが高くなり、就職を考えていきたいと言われていました。いつ頃、就職をしたいか質問すると、秋ごろと自分のなかで考えておられました。
- ・ 実習生にとって、初めての一般企業体験でした。一番の印象は、従業員の方々の配慮ある対応だったようです。優しく、丁寧に教えてくれたと。
- ・ 一方で、日ごろの訓練ではあまり経験のない3時間ほぼ立ちっぱなしの作業は、肉体的にはきつく限界ギリギリだったようですが、何とか緊張感をもって乗り切れたという達成感を味わう経験にもなったようでした。
- ・ 事前に注意されていたことをミスしたようですが、報告後、フォローしてもらい、これも自然なやり取りの中で、実際の働く現場を実感するエピソードとなり、その後の訓練に、真剣さと増し加える良い刺激になったように見えます。
- ・ 緘黙でも受け入れてもらえることはわかったが、自分としては、自分の意見や気持ちを伝えるタイミングや手段がわからなくて、戸惑う場面もあったようです。もっとコミュニケーションが取れるようになってから進んでいきたいと言われている。

チャレンジ実習についての気付き、要望等

- ・ 実習先の確保については、受け入れる企業側も体制を整える準備等が必要になる。こういう機会を通じて実習させていただけることは本当にありがたい。今後も継続していつてもらいたい。
- ・ 実習の日程が3月で、年度替わりの時期と重なったため実習日数に制約が出たので、見学と実習をもう少し早い時期に設定できればと思いました。
- ・ 見学と実習の間隔があまり空かない方が、両方に参加する利用者にとっては気持ちが途切れずに取り組めたのではないかと思います。
- ・ 3日間の実習ではありましたが、利用者さんの気持ちが変わっていく様子も見られ良かったです。自信がついたように見られ、表情も変わっていました。今後も見学だけでなく、現場実習ができる企業があると助かります。
- ・ 新型コロナの影響があり大変だったと思う。次年度について、微妙な状況なので無理な計画は立てない方がよいと思う。
- ・ (2日しかない実習について)3日間やりたかったようです。
- ・ 12月ごろまでに実習が終われば、実習企業先に就職チャンスがあるかも。他事業所の支援員が実習を見てくれることで、利用者に対して新しいことが発見できたりするので、いい効果がある。
- ・ 福祉サービスの利用を開始して初めての实習だったため、最初は緊張していましたが、実習担当(調査員等)がサポートしてくれることがわかってから、安心したそうです。いてくれたことが心強かったようです。

- ・ 実習前に事前打ち合わせがあって、サポートしてくれる方がわかるのはうれしい。
- ・ 今回で2回目のチャレンジを利用しての体験なので、本人はスムーズに導入できたようでした。とても楽しい実習だったようです。
- ・ 障害を理解していただいた丁寧な指導や対応にとっても感謝されていました。また、働いている当事者の方のお話を聞いたことが、ご本人にとってとても良かったと聞いています。
- ・ 事業の目的を理解した事業所(企業)の対応や、十分な支援体制があり、安心して参加することが出来ました。